

[医師](#) [若手医師・医学生](#) [看護師](#) [薬剤師](#)[eディテール](#)[医師TOP](#)[NEWS & REPORT](#)[連載・コラム](#)[特設サイト（医療経営／癌 他）](#)[学会カレンダー](#)[医師TOP](#) > [NMO処方サーベイ](#) > [抗不安薬：長期処方でもデパス人気変わらず](#)[NMO処方サーベイ](#)[+ 連載をフォロー](#)

抗不安薬：長期処方でもデパス人気変わらず

第2位アルプラゾラム、第3位クロチアゼパムも変化なし

2018/08/15

[精神・神経](#)[エチゾラム](#)[デパス](#)[抗不安薬](#)[印刷](#)[シェア 78](#)[0](#)[ツイート](#)

日経メディカル Onlineの医師会員を対象に、抗不安薬のうち最も処方頻度の高いものを聞いたところ、第1位はエチゾラム（商品名デパス他）だった。医師の58.7%がエチゾラムを挙げ、最も人気のある抗不安薬であることが分かった。第2位のアルプラゾラム（コンスタン、ソラナックス他）は10.0%、第3位のクロチアゼパム（リーゼ他）は8.2%の医師が、最も処方頻度の高い薬剤として選んだ。

なお、エチゾラム、アルプラゾラム、クロチアゼパムというTOP3のラインナップは、第1回調査（2015年10月）、第2回調査（2017年9月）から変わっておらず、そのシェアも目立った変化は見られなかった。

2018年度の診療報酬改定では、ベンゾジアゼピン受容体作動薬を長期処方すると、処方料・処方箋料が減点される仕組みが導入されている（[関連記事](#)）。この処方サーベイは今年4月の改定直後に実施。自由記述での回答の中で、「診療報酬改定で処方を控えるようにした」というコメントもあった（下の別掲記事参照）。

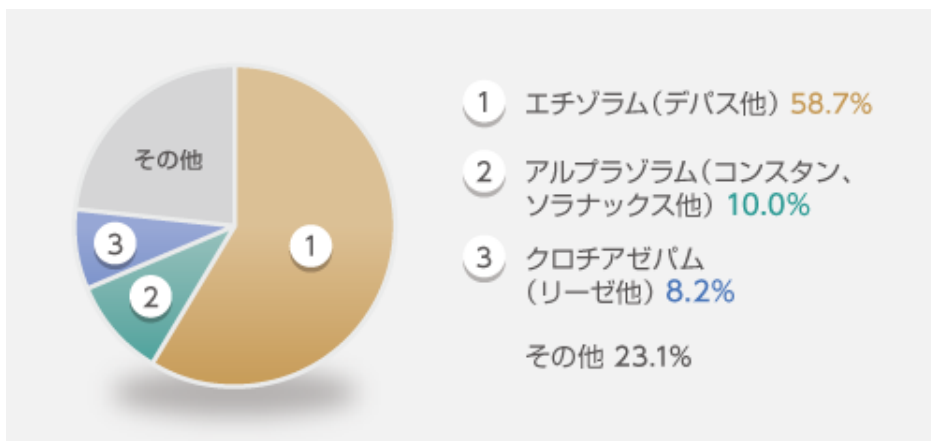


図1 日経メディカル Onlineの医師会員が最もよく処方する抗不安薬
(処方経験のない469人を除いて作成)

【調査概要】 日経メディカル Online の医師会員を対象にウェブアンケートを実施。期間は2018年4月12日～18日。有効回答数は3574人。内訳は病院勤務医2481人、診療所勤務医478人、開業医540人、その他75人。

第1位の エチゾラム を処方する理由

(商品名デパス他)

- ・使いやすい。しかし診療報酬改定もあったので、減量に取り掛かっている。(60歳代診療所勤務医、一般内科)
- ・良い点：0.5から3mgまで患者さんに合わせて量を増減できる。眠剤の代わりにも使用できる。短所：長期投与できない。今回の診療報酬改定で減点対象になった。(50歳代病院勤務医、代謝・内分泌内科)
- ・診療報酬改定で処方を控えるようにした。(70歳以上開業医、循環器内科)
- ・依存性が強く問題がある薬ですが本当に必要な患者さんには効果があります。いかに依存性にさせないか神経を使う薬です。(50歳代開業医、一般内科)
- ・自分で選択して処方することはないです。気に入ってるとかはないですし、処方したくないのですが、古くから服用されている方が多く、減量や中止に激しく抵抗されるのに転医もしない方もいらっしゃるの、対応に苦慮しています。(40歳代病院勤務医、総合診療科)
- ・かなり依存性が高いのが難点です。緊張型頭痛にはよく効くように思います。(50

歳代診療所勤務医、総合診療科)

- ・自分で処方を始めることはない他院で処方されてきて、やめるにやめられない患者にやむなく処方している状況 (50歳代診療所勤務医、整形外科)
- ・脊椎疾患にも適応がある。(50歳代病院勤務医、整形外科)

第2位の アルプラゾラム を処方する理由

(商品名コンスタン、ソラナックス他)

- ・効果の発現が早く、短期の利用に向いている。(60歳代開業医、精神科)
- ・頓服で出しています。眠気は多くなく、効果を実感してもらいやすいように思います。(40歳代診療所勤務医、精神科)
- ・時間的、強度的に中間なので処方しやすく、その反応にて次の薬剤の検討薬剤としています。(50歳代病院勤務医、精神科)
- ・ソラナックスを頓服で使うことが一番多いです。即効性で眠気があまりないこと、作用時間が短いことで、不安発作を中心に使っています。できるだけ長期には使わないようにしています。(50歳代診療所勤務医、総合診療科)
- ・抗不安作用としてはそれほど強くはないのですが、反面、眠気も少ないと思います。このため、高齢者にも比較的投与しやすいと思っています。(60歳代病院勤務医、一般内科)

第3位の クロチアゼパム を処方する理由

(商品名リーゼ他)

- ・短期作用型で力価も小さく、比較的依存性のリスクも少ない点。患者様によっては効果の実感が少ないと言われる場合もありますが、おおむね印象はいいような評価を得ております。依存性が少ない点でいえば、タンドスピロンやメイラックスなども使用頻度は高いです。(40歳代病院勤務医、精神科)
- ・このくらいの強さの薬がちょうどいい患者が多い。他の薬も使っています。(60歳代開業医、精神科)
- ・効果は強くないが、依存性も少ないこと。(30歳代診療所勤務医、総合診療科)